

## I ミニアチュア・インキュナブラ

ミニチュアブックとは小型の本で、写本の時代から作られており、印刷技術の開発後は印刷によって作られるものが主流になっている。特に15世紀に作られた印刷本をインキュナブラという事に合わせて、15世紀に印刷されたミニチュアブックをミニチュア・インキュナブラと呼ぶ。サイズについての定義はないが、本研究ではMcMurtrie<sup>1)</sup>らの先行研究に合わせて120mm以下のものを指す。

ミニチュアブックに関する研究はコレクターらを中心になされているが、15世紀のミニチュア・インキュナブラの研究は少ない。また、逆にインキュナブラの研究者からもミニチュア・インキュナブラに関する研究はあまりなされていない。

これまでの研究として、McMurtrie<sup>1)</sup>はミニチュア・インキュナブラ8点の内容を1点ずつ詳細に調査した。製本の際に大きな本を小さくできるので現在のサイズは基準にならないと考え、印刷面の大きさに注目した。そして余白を取ったうえで120mm×85mmのミニチュアブックになりうる、印刷面が75mm×56mm以下のものをミニチュア・インキュナブラと定義した。

Welsh<sup>2)</sup>は幅広くミニチュア・インキュナブラの特徴を調査した。McMurtrieの定義を元に印刷面の大きさをミニチュア・インキュナブラを選んだが、必要な余白はより小さいと考えて印刷面の大きさが82mm×56mm以下のものを調査した。調査方法として英国図書館(BL)とピアポイントモーガン図書館の目録では印刷面の大きさが記されていることと、ドイツを中心にしたインキュナブラの総合目録であるGesamtkatalog der Wiegendrucke (GW)<sup>3)</sup>にある行数と活字サイズで大きさが計算できることを述べている。先行研究で得たものと合わせて100件を得た上で、用いられている活字、内容と出版地と出版者を調査した。そして、ミニチュア・インキュナブラには普通の活字が使われていることが多いこと、時祷書を中心とした宗教書がほとんどだということ、ドイツとイタリアが出版の中心地であることを示した。しかし、Welshはどの図書館や目録を対象にしたのかは明記していない上に注目すべき点を示すことに注力しているため、詳細を確認できない。

このように先行研究ではMcMurtrieが定義を示し、Welshが全体を見渡したものの、調査対象などに不明確な部分があり、未だ十分な検討

がなされていないといえる。

この他に個別の図書館の蔵書を元にした、Gartner<sup>4)</sup>、Goff<sup>5)</sup>、Bliss<sup>6)</sup>らによる研究がある。GartnerはJulian Notaryの出版した1点のみの、Goffは米国議会図書館の蔵書から、Blissはハンティントン図書館の蔵書からそれぞれ十数点の個別の内容を調査している。

## II 研究の目的と方法

### 1. 研究の目的

本研究はミニチュアブックの歴史研究の中でも重要な位置を占めるにもかかわらず先行研究が不十分なインキュナブラの出版状況を調査し、ミニチュア・インキュナブラの特徴を考察することを目的とする。

現在はGWが電子化され、Incunabula Short Title Catalogue (ISTC)<sup>7)</sup>が公開されるなどインターネット上で利用できる総合目録が充実してきており、個別の図書館の目録も電子化されてインターネット上で公開されているため、先行研究より幅広い調査が可能であると考えられる。

### 2. 研究方法

本研究では総合目録から先行研究で定義された書物を抽出する。そのために第一に一定以下の判型の書籍を洗い出しミニチュア・インキュナブラの候補を抽出する。次に判型で抽出した候補の実際のサイズを個別の図書館の目録などを用いて確認することでミニチュア・インキュナブラを探し出す。そして見つかったミニチュア・インキュナブラの出版傾向をインキュナブラ全体と比較することによって明らかにする。インキュナブラ全体の情報はISTCとGWから抽出するとともに参考文献<sup>8)</sup>を用いた。

### 3. 調査対象の抽出

まず、国際的な情報が登録されており、主要なインキュナブラの所蔵国の情報を含んでいるISTCとGWを用いて判型が16折版以下の項目を洗い出した。元となる全紙の大きさによって同じ判型でも完成する本の大きさは異なるが、16折版より大きな8折版になると小さな紙でも16cm程度になってしまいミニチュアブックとは呼べないからである。

ISTCでは16折版が249件、24折版が4件、32折版が20件、64折版が3件の計276件がえられた。このうち16折版と32折版のいずれかであるというものが1件あるため275件となる。また、GWでは16折版が232件、18折版が1件、24折版が4件、32折版が18件、64折版が

4 件あり、合計 259 件中 ISTC と重複しないものが 27 件であった。この 302 件を候補とする。

次に個別の図書館の目録を用いて候補となる書籍のサイズが McMurtrie らの定義と同じ 120mm 以下か確認した。個別の図書館目録としてはインターネット上に公開されている目録のほか、入手できる範囲で英国図書館の Catalogue of books printed in the XVth century now in the British Museum (BMC)<sup>9)</sup>などの紙媒体の目録にもあたった。先行研究と異なり外側のサイズを基準にしたのは、今回は判型で基準を設けているため、無理にサイズを削った本は含まれていないと考えられる。外部の大きさから 81 件のミニアチュア・インキュナブラが得られたものの、このうち 80 件は英米の図書館の所蔵で、ヨーロッパ大陸ではインキュナブラの大きさはほとんど記述されていなかった。

そこで、先行研究でも用いられていた印刷面の大きさも基準にすることにした。BMC には印刷面の大きさが記されている。また、GW には活字の種類と印刷された行数が記述されているものがあるため、印刷面の大きさを確認できる。その際に複数の活字を使用している場合は、大きな活字が見出しに使われ、小さな活字が本文に使われていると考えられるため、小さな活字を基準にして計算した。ミニアチュア・インキュナブラとするサイズの基準は Welsh の定義にしたがって高さ 82mm 以下とした。なお、幅を基準にしなかったのは、GW の記述から計算した活字の大きさと行数では幅がわからないためと、古典籍の目録作成でも使われている AACR2 等の目録規則では幅広の本以外は高さのみを記述するよう定められているためである。印刷面の大きさから 170 件がミニアチュア・インキュナブラであることがわかった。

そして、重複を除いた合計 191 点がミニアチュア・インキュナブラであることがわかった(第 1 表)。主な対象として用いた ISTC に収録されているインキュナブラが 3 万点以上あるので、ミニアチュア・インキュナブラはその 1% 以下である。なお、大きすぎるものは 28 件で、大きさが不明なため除外されたものが 83 件である。不明なものの中には、かなりのミニアチュア・インキュナブラが含まれていると推測される。

第 1 表 ミニアチュア・インキュナブラの数

判型	ISTC より	GW より	ミニアチュア・インキュナブラ
16°	249(248)	232	168(167)
18°	0	1	0
24°	4	4	2
32°	20(19)	18	20(19)
64°	3	4	2

### III ミニアチュア・インキュナブラの特徴

#### 1. 出版地

ミニアチュア・インキュナブラの出版された国をまとめると第 2 表のようになった。ドイツとイタリアでミニアチュア・インキュナブラの出版は盛んである。これはインキュナブラの出版が盛んな国と一致するが、その一方でベルギーでの出版が多くフランスでの出版が低調な点はインキュナブラ全体と比べて特徴的である。

第 2 表 国別出版点数

出版国	都市数	出版点数
イタリア	10	75
ドイツ	13	72
フランス	8	15
ベルギー	1	11
スイス	1	9
オランダ	3	6
イギリス	2	3

出版件数が 5 件以上の都市をまとめると第 3 表のようになり、インキュナブラを 100 点以上出版している都市ばかりである。イタリアで出版されたミニアチュア・インキュナブラの大半はヴェネチアでの出版であるのに対し、ドイツでは様々な都市で出版されている。これはイタリアの方が印刷の行われた都市数が多く、小規模な印刷者が多かったというインキュナブラ全体の傾向と異なっている。

第 3 表 都市別出版件数

出版地	件数	国
ヴェネチア	53	イタリア
アントワープ	11	ベルギー
ニュルンベルク	11	ドイツ
バーゼル	9	スイス
ケルン	9	ドイツ
マグデブルグ	8	ドイツ
ライプチヒ	7	ドイツ
ナポリ	9	イタリア
シュトラスブルグ	7	ドイツ
アウグスブルク	6	ドイツ
リュールベック	6	ドイツ
シュパイアー	5	ドイツ

#### 2. 印刷者

出版件数が 5 件以上の印刷者をまとめると第 4 表のようになった。なお、合同での出版は全ての印刷者に件数を加えている。

いずれの印刷者も多数のインキュナブラを印刷しており、ミニアチュア・インキュナブラの比率は多くても 1 割程度でしかない。

第4表 主要な印刷者

印刷者	件数	出版地
Johannes Emericus de Spira	11	ヴェネチア
Gerard Leeu	11	アントワープ、ゴータ
Caspar Hochfeder	8	ニュルンベルク、メス
Andreas Torresanus, de Asula	8	ヴェネチア
Moritz Brandis	7	マグデブルグ
Mathias Moravus	7	ナポリ
Nicolaus Jenson	6	ヴェネチア
Johannes Hamman	6	ヴェネチア
Peter Drach	5	シュパイアー
Nicolaus de Frankfordia	5	ヴェネチア
Johann (Reinhard) Grüninger	5	シュトラズブルグ
Erhard Ratdolt	5	アウグスブルク

最多の11件を出版した Johannes Emericus de Spira をはじめとして5人がヴェネチアの印刷者で、出版地別に見た時にヴェネチアでの出版が多かったのは活発な印刷者が複数いたためだとわかる。

また、Gerard Leeu はアントワープとゴータで11件のミニアチュア・インキュナブラを出版している。これは低地諸国におけるミニアチュア・インキュナブラの出版数の半分以上であり、ベルギーをはじめとした低地諸国での出版数が多い原因でもある。

出版が少なかったフランスの印刷者では、メスで Caspar Hochfeder が3件出版しているのが最多である。しかし、彼が主にミニアチュア・インキュナブラを出版していたのはドイツのニュルンベルクである。

ミニアチュア・インキュナブラは大きなサイズで出版されたものの再版なのではないかと考え、主な印刷者たちの出版物を確認した。ミニアチュア・インキュナブラの中で同じ印刷者から同じタイトルの大きなインキュナブラが出版されていたのは、2折版が Peter Drach の詩篇と、Johann (Reinhard) Grüninger の聖務日課書の2件、4折版が Caspar Hochfeder の教理の1件のみである。比較的小さな8折版で出版している例はしばしば見受けられた。つまり、4折版や2折版の大きな書物と同様の内容を再版として出版しているわけではなく、小さな本に専用の内容で印刷と出版をしている。

### 3. 出版年

出版年を出版国別にみると第5表のようになった。なお出版年が不明な1件は除いている。1470年代にイタリアで始まり、1480年代以降は徐々に出版国も出版点数も増えている。インキュナブラ全体の出版と比較すると、それぞれの地域で出版が広まってから20年程度たってからミニアチュア・インキュナブラの出版が広まる

ことがわかる。

第5表 出版年・出版国別出版件数

出版年	イタリア	ドイツ	フランス	ベルギー	スイス	オランダ	イギリス
1471~1480年	14	1	0	0	1	1	0
1481~1490年	33	25	5	7	4	1	0
1491~1500年	28	46	10	4	4	3	3

### 4. 活字サイズ

ミニアチュア・インキュナブラに使われている活字のサイズと印刷された行数をまとめると第6表のようになる。なお、表中の活字サイズは20行当たりのサイズである。活字は20行当たり70mm程度のものが中心であり、特別小さな活字ではない。一方で1ページ当たりの行数は平均で20行をきるため、1ページに印刷できる文字数は多くない。

第6表 活字のサイズと行数

活字サイズ	~15行	16~20行	21~25行	26行~
~50mm	0	1	0	3
51~60mm	4	7	13	3
61~70mm	8	18	30	1
71~80mm	6	21	8	0
81~90mm	16	9	0	0
91mm~	13	5	1	0

次に活字のサイズを時代別にみると、第7表のようになった。1470年代に使われていた活字は81~90mmの大きな活字であるが、1480年代からはより小さな活字が増えていることがわかる。

第7表 出版年別の活字のサイズ

活字サイズ	1471~1480年	1481~1490年	1491~1500年
~50mm	0	0	4
51~60mm	1	10	16
61~70mm	0	28	29
71~80mm	2	15	18
81~90mm	12	3	9
91mm~	2	6	12

最小の活字は46mmで、1497年にリヨンの Nicolaus Wolf がミニアチュア・インキュナブラにのみ用いた活字と、1492年から1499年にかけてヴェネチアの Johannes Emericus, de Spira がミニアチュア・インキュナブラと印刷面の高さが82ミリをわずかに上回る小さな書物に用いた活字である。時代とともに技術が向上したことで、ミニアチュア・インキュナブラのような小さな書籍に特有の小型活字が作られるよ

うになったと考えられる。

## 5. 内容

内容を見ると第 8 表のようになった。約 40% が時祷書で次いで約 20% が聖務日課書である。そして残りも 2 件を除いてキリスト教に関する書物である。インキュナブラ全体ではキリスト教関連の書籍は多いものの半数以下であり、大きな差がみられる。

第 8 表 主な内容

内容	件数
時祷書	82
聖務日課書	42
詩篇	14
その他キリスト教	51
俗書	2

更にキリスト教の書物の中でも聖書が存在しない。詩篇は含まれているものの、古くから祈禱などの目的で独立して出版されてきたため聖書のほかの部分とは性質が異なる。聖書がないのはサイズが原因だと考えられる。先に述べたように、印刷文字数の少ないミニアチュア・インキュナブラでは長大な聖書を印刷することができず、必要な事項を絞った時祷書や聖務日課書が多く作られたのだろう。

なお、2 件ある俗書は 1 件が 4 世紀の文法学者 Aelius Donatus の文法学の書物『小文法学』で、もう 1 件が印刷者の Aldus Manutius が自ら著作したヘブライ語の学習書であった。

キリスト教の書物でも俗書でも、読むことが可能な字の大きさと日常的に利用される内容の両面から、実際に利用される事を想定したものだと考えられる。

## 6. 想定される読者

ミニアチュア・インキュナブラの読者を考えると、時祷書は一般信徒向けであるが聖務日課書は聖職者向けと考えられ、いずれも多数が出版されていることからミニアチュア・インキュナブラの読者層は聖職者と一般信徒の両方にわたっている。写本時代の小型本として有名な 13 世紀のパリ聖書は托鉢修道士向けのものであり、ミニアチュアブックの読者層は変化している。

## IV 結論

本研究の結果、先行研究の 2 倍近いミニアチュア・インキュナブラが見出された。

ミニアチュア・インキュナブラの出版傾向がインキュナブラ全体と比べて似ている点としては出版地と印刷者がある。ミニアチュア・イン

キュナブラは出版の盛んな地域で作られており、印刷者たちはミニアチュア・インキュナブラを様々な出版活動の一部として作っている。国別に見た場合に低地諸国での出版が多く、都市別に見た際にヴェネチアの出版が多いといった一部の差は、特にミニアチュア・インキュナブラの出版を積極的に行った出版者によるもので、総数が小さいので大きな差が出ている。

ミニアチュア・インキュナブラに独自の点としては出版年と内容がある。印刷が広まってからしばらくたってからミニアチュア・インキュナブラの出版が始まっているため、出版年にはインキュナブラ全体とずれが見られる。また、内容としては普通のサイズのインキュナブラの再版はあまり行わず、小さなサイズと少ない文章量に合わせた内容を選んでいる。そしてキリスト教に関する、実用的な書籍が極めて多い点が特徴的である。

共通点と差異が同時に見られるのが活字で、多くのミニアチュア・インキュナブラは他のインキュナブラと同じ活字を用いているが、特に 1490 年代はミニアチュア・インキュナブラに特有の活字が使われるようになった。

なお、今回は 8 折版以上の判型のものが調査対象から除外されているため、先行研究において Welsh が最古のミニアチュア・インキュナブラと述べた 1470 年ごろにオランダで出版された *Abecedarium* などが対象から外れている。また、ISTC では 16 折版と記述されているが GW では 8 折版と記述されているものが複数あり、8 折版のミニアチュア・インキュナブラが存在する可能性が示唆された。8 折版のインキュナブラは ISTC に登録されているだけで 3200 点以上あり、今回とは違った調査方法が必要になる。

## 引用文献

1. McMurtrie, Douglas C. *Miniature Incunabula. The News Letters of the LXIVMOS*. 1929, Vol. 19, P.5-11
2. Welsh, Doris V. *The History of Miniature Books*. Albany N.Y., Fort Orange Press, 1987, 156p.
3. Staatsbibliothek zu Berlin. *Gesamtkatalog der Wiegendrucke*. <http://www.gesamtkatalogderwiegendrucke.de/>(参照 2014-10-03)
4. Gartner, John. *Miniature Incunabulum*. Melbourne, Printing Industry Craftsmen of Australia, 1938, 5p.
5. Goff, F. R. *Miniature incunabula in the Library of Congress*. *Gutenberg Jahrbuch*. 1958, p.108-117.
6. Bliss, Carey S. *Miniature incunabula and manuscripts in the Huntington Library*. *Hoja volante*. 1985 P.3-6
7. The British Library Board. *Incunabula Short Title Catalogue (ISTC)*. <http://www.bl.uk/catalogues/istc/index.html>(参照 2014-10-03)
8. 折田 洋晴; 国立国会図書館. *インキュナブラの世界*. 日本図書館協会, 2000, 134p.
9. Trustees of the British Museum. *Catalogue of books printed in the XVth century now in the British Museum, London, 1962-*, 12vols.